



## 幽 霊

先日読んだ本で、可愛<sup>かわい</sup>がっていた猫が死んでしまっ  
て、いつまでもその悲しみから抜け出せないでいる飼  
主の著者の思いを綴<sup>つづ</sup>ったものがあります。その中に幽霊  
の話が出ていました。幽霊が退屈してぶらぶら散歩して  
いるところに人が出くわして幽霊を驚かせたという例は  
聞いたことがない、幽霊はその幽霊を見る人のために出  
るといっていいだろう、と著者は述べています。幽霊は  
人のいるところに現れ、人のいないところには現れな  
い、ということでしょうか。この著者は霊の専門家でも  
何でもなく、ただ本人の思いを述べているだけです。

幽霊が人のいないところに現れないかどうかについ  
て、以前からテレビの心霊特集などで、霊が現れそうな  
場所にカメラを設置しておいて、後で見ると霊が映って  
いた！ というのがあから、必ずしも人のいるところ  
にしか現れないわけではなさそうです。しかし、幽霊は  
後で人が見ることになるビデオカメラが設置されてい  
たから現れた、とすれば、時空を超えて人の前に現れたと  
考えることもできるでしょう。一方、私の学生時代<sup>せいど</sup>の知  
人で、靈感が強い(?)人がいました。その知人曰く、  
いわゆる怪談に出てくるような幽霊ではなく、普通の人の  
姿であちこちに見えるとのこと。私<sup>わたし</sup>がその知人宅に遊  
びに行った際には、「ほらそこにもいるよ」と言ってよ  
く脅<sup>おそ</sup>されました。が、私にはそんな得体の知れないモノ  
は幾ら目を凝らしても見えません。それでも気持ちは良  
くないので、私の家にはその知人を決して呼ばまい、と  
心に誓<sup>ちか</sup>っていました。知人にしか見えないそれらを幽霊  
と呼ぶのかどうかは分かりませんが、こんな話を聞くと、  
見る(見える)人に関係なく幽霊は現れるようにも  
思えてきます。それでは、どんな人のところに現れたり  
見えたりするのでしょうか？

以前、卒業研究の学生から、何度実験を繰り返しても  
所望する物質を作ることができないとの話を聞かされま  
した。その物質由来のスペクトルが得られないとのこ  
と。彼は実験があまり上手ではなかったので作り方や条  
件が悪いのだろうと思い、手取り足取りアドバイスをし  
ましたが、スペクトルをちゃんと見せてもらってはいま  
せんでした。文献に載っているその物質のスペクトルを  
彼が知っていたからです。しかし後でよくよく見ると、  
すべてのスペクトルにその物質由来と思われる形状を見  
て取ることができました。実際、その後のいくつかの他  
の実験を通して、微量ではありますがモノができてい  
ることを確認しました。彼と私で同じ物質について議論し  
ていたのですが、対象のスペクトルに対するイメージが  
異なっていた、あるいはモノが「ある」「ない」という  
二人の解釈が異なっていた、ということになるのでは  
しょうか(もちろん、モノができていことに気付かなかっ

た彼の問題ではなくて、私の指導の問題です)。はじめ  
からできていたにもかかわらず、彼にとっては姿の見え  
ない幽霊のような存在だったモノが現実のモノになった  
わけです。

分析化学では、物質や物質系の情報を科学的な方法で  
得るその方法論について研究します。それらを通して自然  
を理解したり、新しい技術を産み出そうとしています。  
先の例のように、ある作業を通してモノができてい  
るという事実や得たデータは変わらないのに、「ある」  
「ない」の違いが生じるのは、それを見ている人が異なる  
からです。このような単純な例に限らず、専門家とそう  
でない人ではデータの持つ意味が全く異なるのは当然  
でしょう。最近では学会発表の場において、これこれこ  
うすることで反応を制御できた、とか、新たな機能を付与  
できた、という話をよく聞きますし、私自身も使うこと  
があります。が、実際のところ反応条件や使う物質を変  
えただけだったりします。条件が変わると結果が変わ  
るのは当然で、どうしてそのように変わったかを説明する  
方法もあるでしょう。技術や自然科学など観点が変われ  
ば、結果の説明の仕方も変わるわけです。これらのこと  
は、以前はやったテレビでの霊能者と科学者の議論を連  
想させます。対象が同じなのに解釈や表現が異なるだけ  
です。こうした話はホフマイスターが生命記号論の中  
で述べていることですが、彼によると実験を通して得られ  
たデータは単なるデータであって、自然そのものではない  
とのこと。なので、自然の理解には原因と結果の二項  
論ではなく、観察者を加えた三項関係を考える必要があ  
るようです。最初に書いた幽霊のように、データは人の  
いるところにはしか現れず、しかもデータを通して得る物  
質の情報については見える人にしか見えない、というわ  
けです。データは私たちが実験することで産み出される  
のですから、これも当然と言えば当然です。

だんだん話がそれてきました。結局のところ幽霊は人  
がいるところに現れて、誰にでも見えて<sup>とら</sup>いるのかも知れ  
ません。ただ、幽霊として意識の中に捉えられていない  
だけではないかと思います。姿を見せなくてもいいので  
すが、たまには現実に上手<sup>うま</sup>くいついていない実験をこちら  
の思う通りの結果に導いてくれないかなあ、などと考  
えたりします。と、この原稿を書いている間に私自身が結  
石で病院に担ぎ込まれてしまい、味わったことのない苦  
痛を強いられました。今回の話題と関係ないとは思いた  
いのですが…今年の前厄<sup>まえうら</sup>だし…少し不安になりました。

次回は、一気に南下して鹿児島大学の富安先生にお願  
いいたしました。寒いところからの幽霊話より暖かく明  
るい話題に期待したいです。

[北海道大学大学院工学研究科 谷 博文]